

令和2年4月3日

市会議員各位

神戸市新型コロナウイルス感染症対策本部

危機管理監 山平 晃嗣

健康局長 小原 一徳

新型コロナウイルス感染症対策にかかるお知らせ

新型コロナウイルス感染症対策における神戸市の対応方針第5弾について、別紙のとおり、お知らせいたします。

連絡先：神戸市新型コロナウイルス感染症対策本部

078-322-6481（内線 902-9720）

新型コロナウイルス感染症対策本部員会議（第5回）

日時：令和2年4月3日(金)16:00～

場所：市役所1号館14階大会議室

議 事 次 第

1. 指標分析

2. 市長指示

3. 対応方針

○健康部

○危機管理部

○学校部

○福祉部

4. その他

新型コロナウイルス感染症対策における神戸市の対応方針 ―第5弾―

令和2年4月3日

4月1日、政府の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議が「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」（以下、「提言」という。）を取りまとめ、地域ごとのまん延の状況を判断する際に考慮すべき指標等が示された。

本市において、今後の対応方針を定めるため、現時点におけるこれら指標等を分析したところ、以下のとおりである。

（新規確定患者数） 図1及び図2参照

神戸市在住者では、昨日までに38名（市外発表分6名を含む）の感染者が確認され、このうち20名が既に治癒確認済みであり、18名（うち、重症は3名）が入院中となっている。

このうち、神戸市発表分32名について、確定日別に示したものが図1であり、それぞれの発病日（感染者からの聞き取りにより何らかの症状が最初に出た日）別に示したものが図2である。発病日ベースで見ると神戸市内においては、毎日0～3名程度ずつ、継続的に感染者が発生しているものの、1週間前と比較して大幅な増加は確認されない。

（リンクが不明な新規確定患者数）

これまでの積極的疫学調査の結果、神戸市発表分32名のうち、30名について何らかの疑わしい感染ルートが判明している。このため、感染ルートが全く不明であるのは2名程度にとどまり、その数が増えているという状況にはない。

（帰国者・接触者外来の受診者数） 図3参照

受診者数のこれまでのピークは、大阪のライブハウス関連の案件が多かった3月13日であり、その後の増減はあるが、最近1週間の受診者数が増えている状況にはない。

（相談表の数項目） 図4及び図5参照

帰国者・接触者外来受診を指示された件数のピークは、大阪のライブハウス関連の案件が多かった3月13日であり、最近1週間はゼロの日もあるなど増えている状況にはない。

医療機関からの相談件数のこれまでのピークは、3月24日であり、最近1週間の相談件数が増えている状況にはない。

（PCR検査等の件数及び陽性率） 図6参照

これまでのPCR検査数448件のうち、陽性は32件で陽性率は7.1%である。クラスタ

一が発生して濃厚接触者の検査を行うと陽性率が上がるなどの傾向があるが、この1週間で陽性率が大きく変化しているという状況にはない。

以上のことから、現時点では神戸市は、提言における「感染確認地域」に該当する、と評価する。

この評価に関しては、新たな感染者発生状況を踏まえ、兵庫県とも密接な連携をとりつつ、随時見直すこととする。

この評価を踏まえ、以下のとおりの措置を講ずることとする。

1. 神戸市における医療提供体制の確保

4月1日に開催された新型コロナウイルス感染症対策専門家会議において、重症者を優先した医療提供体制の確保を図っていく必要があること、軽症者には自宅療養以外に施設での宿泊の選択肢も用意すべきであることが示されている。

現在、重症患者は3名だが、医療機関との協議により、重症者に対応した約50床の確保の目途が立っている。今後も、高度医療に対応できる医療機関と協議し、重症患者対応病床の確保に向けて努力していく。

また、患者が大幅に増えた場合、軽症者は原則自宅療養となるが、宿泊ができる施設の確保に向けて具体的に協議を行う。

2. 市民への呼びかけ

「感染確認地域」であるとの評価を前提に、提言を踏まえ、市民に以下の行動変容を呼びかける。

- ① 人の集まる場所や「3つの密」を徹底的に回避してください。特に、
 - ・ 屋内で50名以上が集まる集会・イベントへの参加は控えてください。
 - ・ 人混みや近距離での会話、特に大きな声を出すことや歌うことを避けてください。
 - ・ カラオケ・ライブハウスへの出入りを控えてください。
 - ・ 夜間から早朝にかけて営業しているバー、ナイトクラブなど、接客を伴う飲食店業への出入りを控えてください。
 - ・ ジム、卓球など呼気が激しくなる室内運動の場面で集団感染が生じていることも踏まえた対応をしてください。
- ② 東京都及び大阪府は、「感染拡大警戒地域」と評価されていることから、これらの地域との不要不急の往来を避けてください。

3. 市立学校園の再開と今後の対応(教育委員会)

市立学校園については、教育活動を再開するための所要の準備を進めることとするが、市長として一斉臨時休業の継続を要請するかどうかについては、政府の動向や近接するエリアにおける感染拡大の状況等を見極めたうえ、4月6日に判断する。

4. 社会福祉施設等の利用

全国的に社会福祉施設等において規模の大きいクラスターが発生しており、提言においても「福祉施設での通所サービスなどの一時利用を制限(中止)する」等の対応が求められている。

万一、これらの施設でクラスターが発生した場合でも、他の施設に新たなクラスターを生み出すことなく、また、サービスの休止を招くことがないよう、複数の通所系サービスを利用されている高齢者、障害者に対し、できる限り利用先を1か所に限るよう呼びかけを行う。社会福祉施設等に対しても、同様の要請を行うほか、さらなる感染防止のための方策の徹底を依頼する。

5. 市有施設の扱い

市立図書館、博物館、美術館については、現行の感染防止のための方策を徹底しながら、開館を継続する。その他の市有施設については、原則としてこれまでと同様の措置を4月30日まで継続する。

6. イベント等の開催

5月31日まで、市主催イベント等については、不要不急のものについて開催を延期・中止するとともに、屋内に50名以上が集まる会議や集会は開催しない。

5月31日までの間、屋内に50名以上が集まるイベント等については、開催の自粛を呼びかける。

●地域ごとのまん延の状況を判断する際に考慮すべき指標等（国の対策本部第25回資料より）

図1 神戸市在住の感染者発生状況（確定日ベース）

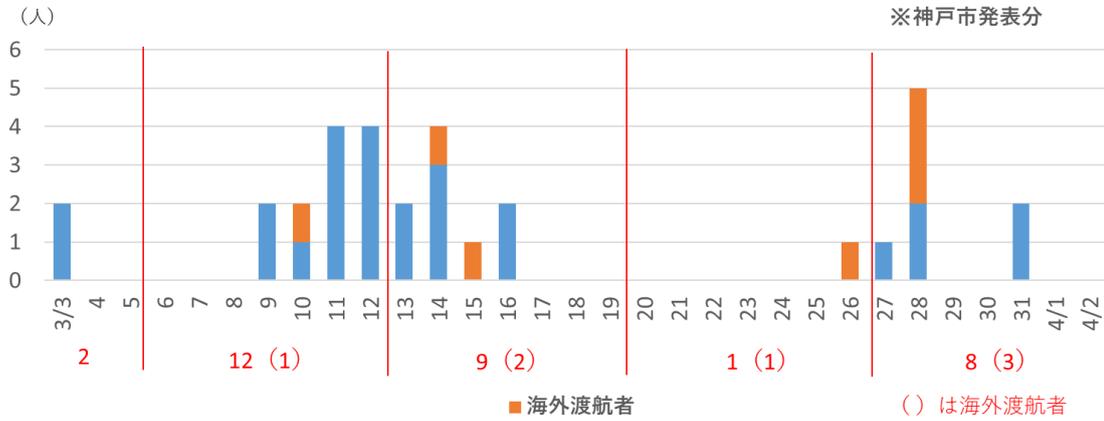


図2 神戸市在住の感染者発生状況（発病日ベース）

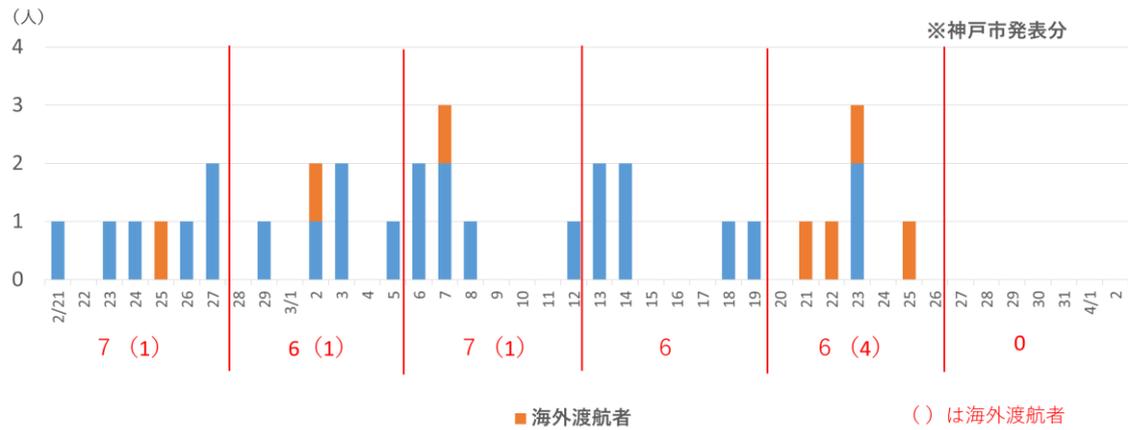


図3 帰国者・接触者外来の受診者数

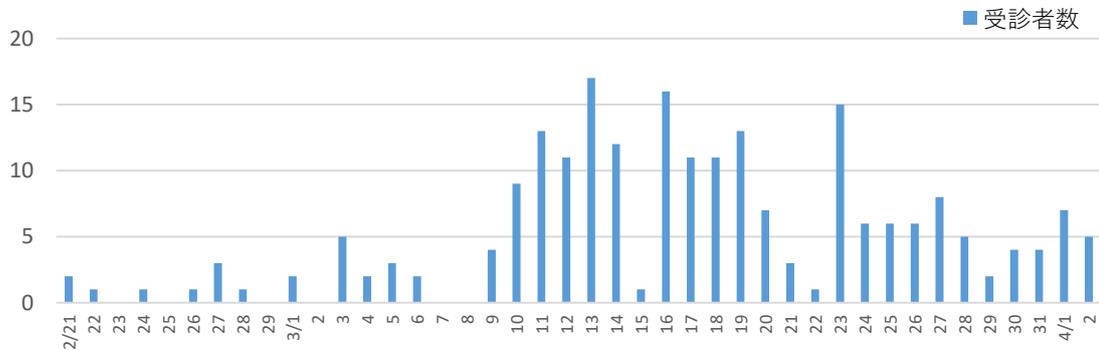


図4 帰国者・接触者相談センターから帰国者・接触者外来受診を指示された件数（373件）

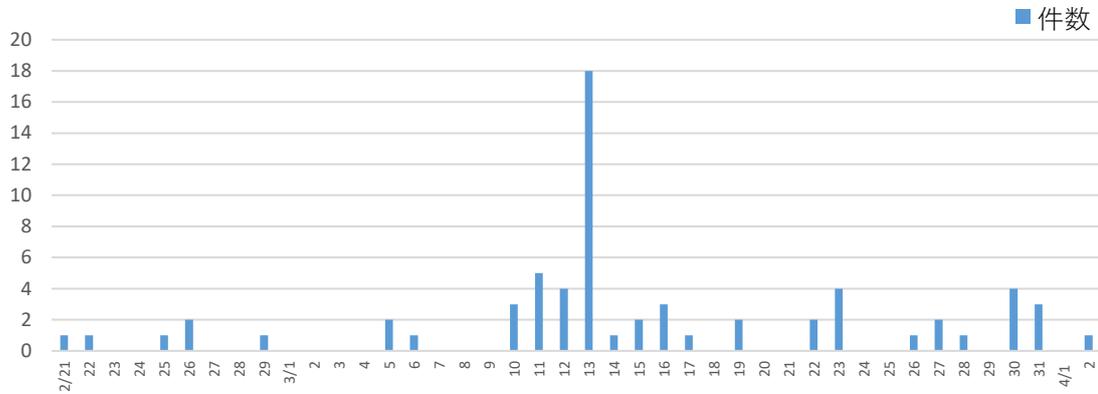


図5 医療機関から帰国者・接触者相談センターへの相談件数の推移

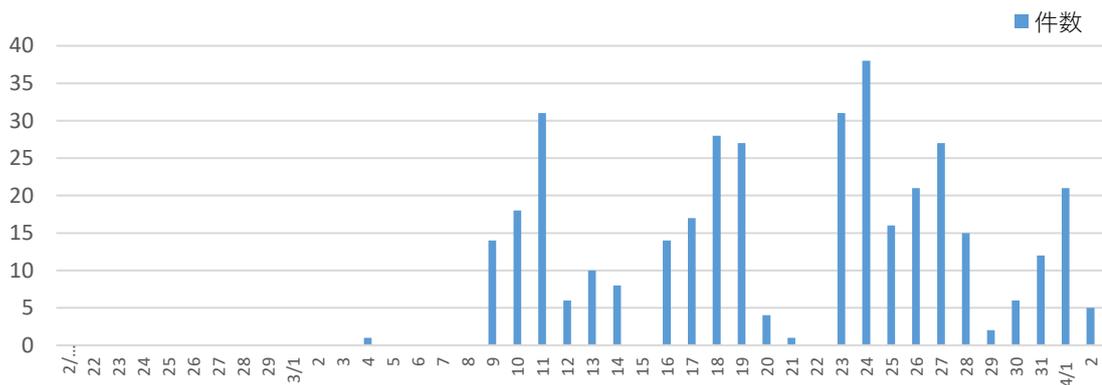
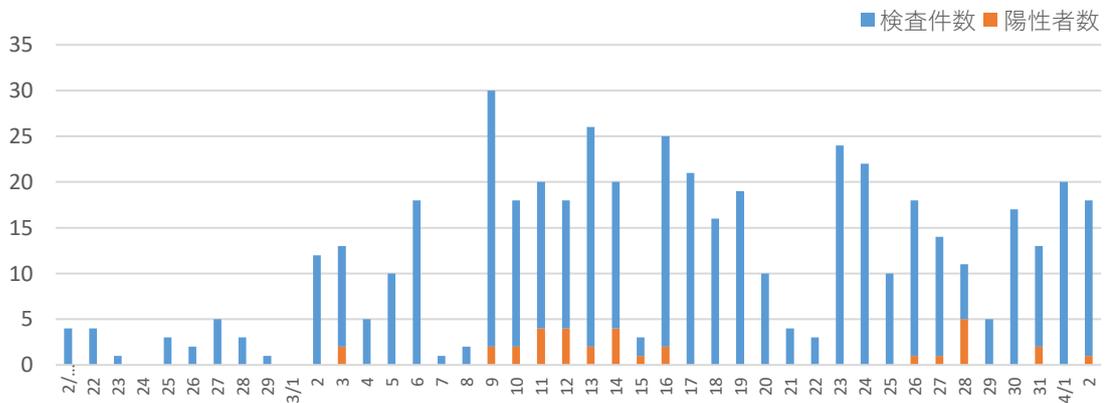


図6 PCR検査等の件数及び陽性率

PCR検査（環保研）448件 うち陽性32件（陽性率7.1%）



市民の皆さまへ（神戸市の医療提供体制について）

令和2年4月3日（金）

1. 現在の医療提供体制の状況

現在、「帰国者・接触者相談センター」で相談の結果、新型コロナウイルス感染の疑いがある場合は、「帰国者・接触者外来（当初1か所→現在7か所）」を受診いただくよう調整しています。

陽性患者の入院については、神戸市内の感染症指定医療機関や感染症予防対策がとれる医療機関の一般病床の活用により、現在適切に対応できています。

また、神戸市医師会や民間病院協会等と連携し、事前に電話で問い合わせながら、病状により、かかりつけ医や地域の医療機関で診療いただける体制を整えています。

（4月3日現在 神戸市内在住者の入院患者 18名）

2. 今後の医療提供体制

今後の感染拡大により、患者が大幅に増加した場合に向けての対応も進めています。

- ① 現時点で感染症患者のために用意できている病床数は、市内で50床です。この病床数を、まずは速やかに120床まで増やせるよう、現在、医療機関との協議を進めます。
- ② 重症者向けの病床の確保が極めて重要です。現時点で重症者向けの病床は14床確保できており、近日中に約50床まで確保できる目途が立っています。
- ③ 国の通知に基づき、最悪のケースにおけるピーク時の重症者数を試算すると約90人となりますので、今後も、高度医療に対応できる医療機関と協議し、重症患者対応病床の確保を進めます。
- ④ 国の専門家会議の提言では、「軽症者には自宅療養以外に施設での宿泊の選択肢も用意すべきであること」とされています。本市においても、軽症や無症状の患者については、原則として自宅療養いただく予定としていますが、自宅療養が難しい方もおられますので、現在、宿泊ができる施設の確保に向けた具体的な協議を行っています。

3. 医療機関等への風評被害の防止

感染症患者やその家族、そしてこの感染症の対策や治療に当たる医療関係者従事者とその家族に対する差別や偏見に基づく風評被害が発生しています。

誰もが感染者・濃厚接触者になるリスクがあります。感染者を治療する医療関係者関係者がいなくなれば、自分が感染者になったとき、治療が受けられなくなることを理解してください。医療従事者や感染による不安を抱える方に対

し、さらなる不安や動揺を与える行為は断じて許されません。市民の皆さまのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

※新型コロナウイルス感染症や健康への不安がある方は、神戸市電話相談窓口（24時間受付）へご連絡ください。

新型コロナウイルス専用健康相談窓口 078-322-6250

帰国者・接触者相談センター 078-322-6829

※医療機関を受診する際には必ず事前に連絡し、マスクを着用の上受診してください。

市民の皆さまへ（市長メッセージ）

政府の専門家会議の提言を踏まえ、本日、「新型コロナウイルス感染症対策における神戸市の対応方針―第5弾―」を決定しました。

世界の感染者数が 100 万人を超え、我が国における新型コロナウイルス感染症のまん延状況も予断を許さない状況にあり、この感染症との闘いは、まだ先行きが見通せません。

国の専門家会議では、「感染拡大警戒区域」に該当する地域では、「地域内の学校の一斉臨時休業も選択肢として検討すべき」、と指摘されています。神戸市では感染者が継続的に確認されていますが、現時点では、直近 1 週間における新規感染者数やリンクなしの感染者数の大幅な増加は確認されているような「感染拡大警戒地域」ではなく、一定程度の増加幅に収まっている「感染確認地域」に該当すると判断します。

3 月 3 日の学校休業から春休みを含めると 1 か月以上、子どもたちが学校に通えない状況が続いています。子どもたちの居場所の確保にも力を尽くしていますが、もう限界に近いという声も伺います。

一方で、子どもたちが学校園で感染することを懸念する保護者の声も寄せられているほか、近隣するエリアにおける感染拡大の状況などを注視することが必要です。

このため、市長としては学校園の臨時休業を要請するかどうかについては、さらに状況を見極め、4月6日に判断することとします。

このほか、以下の事項について、市民の皆さまのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

1. 「3つの密」を徹底的に避けましょう

神戸市内での爆発的な感染拡大（オーバーシュート）を防止するためには、市民おひとりおひとりのお力で、感染拡大防止のための行動を積み重ねていくことが必要です。

政府の専門家会議によると、これまでクラスターの発生が確認されたのは、①換気の悪い「密閉」空間、②人が「密集」していた、③「密接場面」での会話や発声が行われた、という3つの「密」が同時に重なった場です。具体的には、

(ア) 屋内で50名以上が集まる集会・イベントへの参加は控えてください。

(イ) 人混みや近距離での会話、特に大きな声を出すことや歌うことを避けてください。

(ウ) カラオケ・ライブハウスへの出入りを控えてください。

(エ) 夜間から早朝にかけて営業しているバー、ナイトクラブなど、

接客を伴う飲食店業への出入りを控えてください。

(オ)ジム、卓球など呼気が激しくなる室内運動の場面で集団感染が生じていることも踏まえた対応をしてください。

また、東京都及び大阪府は、「感染拡大警戒地域」と評価されていることから、これらの地域との不要不急の往来を避けてください。

2. 風邪症状が出たら、必ず休みましょう

全国の感染事例においては、風邪症状が出ながらも仕事を続け、結果的にほかの方を感染させてしまった例が少なくありません。仕事への責任感から風邪くらいで仕事を休めない、という発想を切り換え、「風邪症状が出たら休む」ことを社会全体で徹底しましょう。

発熱、咳、だるさなど風邪症状が出たら、仕事や学校を休み、くれぐれも人の集まる場所に外出しないでください。

3. 海外から帰国された方へ

神戸市内でも海外から帰国された方からの感染事例が増えています。2週間以内に帰国された方は、市の相談窓口にご連絡いただいた上、入国から14日間は不要不急の外出を控えてください。

4. 必要な PCR 検査は実施しています

神戸市には、PCR 検査を行うことができる市の組織として環境保健研究所があります。現在までに 465 件を超える検査を実施し、検査試薬も十分に備えています。

感染拡大を防ぐとともに、患者に適切な医療を提供するためにも、現在も、医師が必要と判断したもの、患者との濃厚接触者のうち熱や咳などの症状がある方などへの必要な検査は実施しています。また、陽性と判定され入院された方には、症状がなくなってから 2 度、PCR 検査で陰性を確認したうえで退院いただいています。

5. 感染拡大防止に関する必要な情報提供を行っています

感染への不安から、患者の居住地や立ち寄り先などの詳しい情報を知りたくなる気持ちは理解できます。一方で、患者のプライバシーを守ることは、感染拡大防止に必要な情報を患者から保健所が聞き取らせていただくためにも不可欠です。

神戸市ではクラスター発生が懸念されるような事案（医療機関のようなケース）などについては、当該施設の名称を含め、関連情報を速やかに公表して濃厚接触者の健康調査などを行っています。感染拡大防止に必要な情報はしっかりと提供してまいります。

6. 神戸の医療の力を結集します

神戸には、感染症指定病院である中央市民病院をはじめ、多くの病院・医療機関があり、今回の肺炎治療に対しても高水準の医療サービスを提供する力があります。また、神戸市医師会、神戸市民間病院協会とも緊密な連携を行っています。

新型コロナウイルス感染症の患者を診察できる帰国者・接触者外来（保健所等からのあっせんで受診いただくため、病院名は非公表です）も、当初の1か所から7か所に増設しています。

市内在住の入院患者は現在18名おられますが、既に感染症患者のための病床は50床確保されており、今後速やかに120床まで増やします。

特に重症者に対する医療確保が重要ですが、現在、14床が確保されている重症者向けの病床を、近日中に50床に増やします。

一方、軽症の患者の方で医療機関があふれると、重症の方の治療が適切に確保できなくなる恐れがありますので、今後、感染者が大幅に増えてくる場合には、軽症者または無症状の方は、原則として自宅で療養いただくほか、宿泊できる施設の確保も進めています、

風邪等の症状がある方はまずは自宅で経過を見ていただき、症状が長く続く方やその他の心配がある方は、24時間対応している市の相談窓口にまずご連絡ください。

7. イベント・施設などの取り扱い

5月31日まで、市主催イベントについては、不要不急のものについて開催を延期・中止するとともに、屋内に50名以上が集まる会議や集会は開催しません。同じく5月31日までの間、屋内に50名以上が集まるイベント等については、開催を自粛いただきますようお願いいたします。

図書館、博物館、美術館は一部サービス提供を除き、開館を継続します。その他の市有施設については、閉鎖など現行の取扱いを4月30日まで継続します。

8. 感染者、濃厚接触者に対する風評被害の防止

新型コロナウイルス感染症に感染された方は、感染したことによるショックや、他の人を感染させていないかという不安で心を痛めておられます。

にもかかわらず、患者、濃厚接触者とその家族、この感染症の対策や治療に当たる医療関係者とその家族に対し、心ない言葉が投げつけられることがあるとの声を多く聞きます。

誰もが感染者・濃厚接触者になるリスクがあります。感染者を治療する医療関係者がいなくなれば、自分が感染者になったとき、治療が

受けられなくなることを理解してください。

感染による不安を抱える方に対し、さらなる不安や動揺を与える行為は断じて許されません。

市民の皆さまのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

令和2年4月3日

神戸市長 久元 喜造